

第95回 日本産業衛生学会に参加して

健康推進課 田添 貴子



2022年5月25日から5月28日の4日間にわたり第95回日本産業衛生学会が「新しい時代の働き方と産業保健―持続可能な社会を目指して―」をテーマに高知県で開催されました。昨年に引き続き現地開催と同時にオンラインでも参加できるハイブリッド形式での学会開催でした。私は今回、新型コロナウイルス感染症も落ち着いておりまして、3年ぶりに現地で学会に参加することができました。

企画運営委員長の高知大学医学部環境医学教室教授の菅沼成文氏からの「産業衛生活動の現場では、AIの導入やIoT等の技術革新、グローバル化によって労働の質や内容が大きく変化し、働く人の健康状態の格差や価値観の多様化が拡がっている。産業保健の取り組みも既存の枠

HPV(ヒトパピローマウイルス)と子宮頸がん

一般財団法人 北陸予防医学協会

管理医師 山上 孝司

この4月から国は約9年ぶりに、若年女子に対するHPVワクチン接種を積極的に勧奨するように、各自治体に通知しました。今後ワクチンを接種する人がどんどん多くなれば、子宮頸がんの発生が激減していくことと思われます。

HPV(ヒトパピローマウイルス)とは、パピローマ(乳頭腫、イボのような突起物)を発生させるウイルスのうち、人間を宿主とするものの総称です。HPVの種類は150種類以上ありますが、このうち子宮頸がんを発生させるウイルスは15種類とされています。

HPVは、男女の生殖器付近や口腔咽頭内に感染することが多く、女性では子宮頸がん、膣がん、肛門がんの原因になり、男性では口腔がん、咽頭がん、陰茎がんなどの原因となります。

日本では、毎年10,000〜15,000人の子宮頸がんの発生があり、2,800人ほどが死亡しています。子宮頸がんが他のがんと異なっているところは、20代でも発症する点です。

HPVの感染は、性交渉によるものがほとんどで、女性の約80%が感染すると言われています。HPVに感染しても、多くの人は自らの免疫の力によってウイルスを排除できるのですが、一部の方にHPVの持続感染が起こり、さらにその中の一部の方に、子宮頸がんが発生するのです。最終的には、感染者の0.1〜0.15%の人が子宮頸がんを発症すると言われています。

このように子宮頸がんの発生原因のほとんど

がHPVによるもので、ワクチンによってHPVの持続感染を予防できれば、子宮頸がんの発生を減らすことができます。そこで日本も欧米にならって、2013年の4月に若年女子にワクチン接種の積極的勧奨を行ったのですが、ごく一部にワクチンの副反応と思われる障害が生じ、同年の6月に積極的な勧奨を中止することになりました。しかしその後、副反応と思われた障害とワクチン接種の因果関係が証明されず、今回再びワクチンの積極的な勧奨が行われるようになったものです。

現在、子宮頸がん検診は、婦人科医師による子宮頸部の細胞診によって行われていますが、何らかの理由で細胞診ができない場合のセカンドテストとして、自己採取によるHPV検査が始まっています。北陸予防医学協会でも、今年度からこの検査を受け付けています。自己採取でHPVが陰性ならば、細胞診は次年度に実施することによっていと言われています。細胞診を受けずに、自己採取のHPV検査のみで済ますことは推奨されていません。子宮頸がんの中にはHPV以外の原因で起こるものや、現在のHPV検査で検出できないタイプのHPVによる子宮頸がんもあるからです。

新型コロナウイルス感染による重篤化は、ワクチン接種によって大部分抑えられました。ワクチンの接種と細胞診やHPV検査を効果的に実施し、子宮頸がんによって死亡する人をできるだけ少なくしたいものです。

新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延により、急激な技術の進化や働き方の変化がありまし

たが、今後は人口の減少等により一段と大きく「働く」意味が変化することが予想されます。そのような技術の進化や働く場の変化に対応しながら労働衛生機関の保健師として産業保健サービスをどのように提供することができのかが考えることが今後の課題と認識しています。

組みでは考えつかなかった新しい働きを想定して、健康管理を検討する必要がある。参加いただいた皆様には議論を深め、新しい気づきのあるよりよい研鑽の場にしてほしい。」という挨拶から始まりました。

私が参加したシンポジウム等では、従来どおりの産業保健活動では時代遅れになるケースがあること、産業現場で発生する変化自体がリスクであり、変化への対応がニーズであること、リスク評価をもとに対応方法を検討した段階でリスクの前提自体にすでに変化が生じている可能性があり、答えは法令に書かれていないため多くの場合直接的な答えとなるエビデンスが存在しないことなど、今後は現場での判断が重要であることを実感しました。

私が参加したシンポジウム等では、従来どおりの産業保健活動では時代遅れになるケースがあること、産業現場で発生する変化自体が

リスクであり、変化への対応がニーズであること、リスク評価をもとに対応方法を検討した

段階でリスクの前提自体にすでに変化が生じている可能性があり、答えは法令に書かれてい

ないため多くの場合直接的な答えとなるエビデンスが存在しないことなど、今後は現場での

判断が重要であることを実感しました。

私が参加したシンポジウム等では、従来どおりの産業保健活動では時代遅れになるケースがあること、産業現場で発生する変化自体が

リスクであり、変化への対応がニーズであること、リスク評価をもとに対応方法を検討した

段階でリスクの前提自体にすでに変化が生じている可能性があり、答えは法令に書かれてい

ないため多くの場合直接的な答えとなるエビデンスが存在しないことなど、今後は現場での

判断が重要であることを実感しました。

学会視聴に参加して

健康管理センター スタッフ

新しい時代の産業保健・産業医に求められること

近い将来、さらなる情報通信技術の発展により、リモートワークの増加、情報に基づき判断する仕事はAIが行う、危険な作業はロボットが行うなど働く人の環境も大きく変わってくることが考えられます。働く人の健康に向き合う産業医、産業看護職はその情勢に合わせて支援の方法を常にアップデートしていくことが必要であると感じました。また、個人の健康情報の共有が実現したときには、その情報により対象者の全体像を把握しコミュニケーションをとって体系的な支援を考えていくことで、AIやロボットに取って代わられない専門職による支援のあり方を検討していきたいと思ひます。



新職員を紹介します



医療技術部
臨床検査技師

山本 さくら

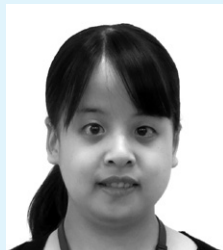
新潟医療技術専門学校を卒業し、4月に入職いたしました。

皆様に教えていただくことをしっかり理解し、早く仕事を覚えて会社に貢献できるよう精一杯頑張ります。

今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

千代田循環器内科クリニック
医療事務

山下 悠愛



北陸ビジネス福祉専門学校を卒業し、4月から働いています。

まだまだ未熟なところばかりで、分からないこともたくさんありますが、一つひとつのことに真剣に向き合い日々努力していきたいと思っています。医療事務員としても人としても成長できるよう頑張りますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

「疲れ・だるさ」感じていませんか？

北陸予防医学協会 管理栄養士 黒川 優希

暑い日が続く、疲れやすかったり、だるさを感じたり、朝起きにくかったり・・・

それは、**鉄不足**が原因かもしれません！

「鉄不足＝貧血」というイメージが強いですが、鉄不足は疲れ・だるさの原因にも関連しています。



どうして鉄分が不足すると疲れやすいのですか？

鉄分が不足してしまうとヘモグロビンが減り、酸素を全身に運ぶ能力が低下するため、疲れ・だるさ等を感じるようになるんですよ。



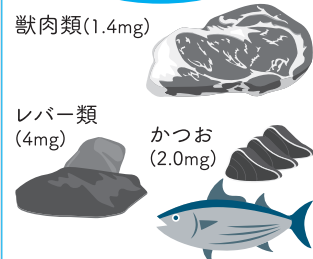
1日にとりたい鉄分量 (mg)

	18～29歳	30～49歳	50～64歳	65～74歳
男性	6.1	6.3	6.3	6.1
女性(月経有)	8.7	8.9	9	8.9
女性(月経無)	5.1	5.3	5.3	5.2

参考：厚生労働省「日本人の食事摂取基準（2020年版）」

鉄分の多い食品（100gあたり）

ヘム鉄



非ヘム鉄



※鉄釜で調理した場合

！ 注意！

お茶・コーヒーなどに含まれるタンニンは鉄分の吸収を妨げる作用があります。食後に飲む場合は1時間空けることが理想です。

吸収率UPのポイント!!!

鉄分には「ヘム鉄」と「非ヘム鉄」があり、両方をバランスよくとることが大切です。「非ヘム鉄」は「ヘム鉄」に比べ、体に吸収されにくい鉄ですが、ビタミンCなどの作用で「ヘム鉄」に還元されることにより吸収率を上げることができます。ぜひ、ビタミンCと一緒に摂取し、吸収率UPを狙いましょう！

健康管理センター スタッフ紹介

毎日を健やかに 潤いのある生活を応援します

健康管理センターは、開設から35年間、健康診断の拠点として、地域の皆様の疾病予防、健康増進に努めてまいりました。位置は富山市の西側の「西二俣」にあります。旧国道8号線沿いで、現在の国道8号線からもアクセスがよく、県内全域からご利用いただいております。

当施設では人間ドック、定期健康診断、協会けんぽ生活習慣病予防健診、特殊健康診断、上部消化管内視鏡検査、その他にもご希望のオプション検査を受けることができます。近年注目されている、睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング検査も機器の台数を増やして対応しております。また、労災保険の二次健康診断も実施しており、当日の結果説明も可能となっております。

当施設のみ、加齢によって進行する加齢黄斑変性や緑内障の早期発見に期待できるOCT（3次元眼底）検査や、受診者のライフスタイルに合わせた午後の上消化管（胃部）バリウム検査を受けることができます。

保健師、管理栄養士も常駐しておりますので生活習慣改善のアドバイスも実施できます。

新しく建設したとやま健診プラザ、高岡

総合健診センターと比べると当施設はコンパクトな建物かつ、古さを感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、スタッフ、装置等には違いはございません。また、比較的予約がとりやすくなっております。事業所様の規模によっては半日、一日単位での貸切りで健康診断の実施もご提案できます。

健康診断のご予約はインターネット、電話、FAXでお申込みいただけます。なお、健康診断の空き状況はホームページにて確認が可能です。お電話での問い合わせも受け付けておりますので、お気軽にお尋ねください。

また、当施設は巡回健診バスによる健康診断の発着拠点として大きな役割を担っております。施設には約200人のスタッフが所属し、1日8～10班を編成し、県内全域をはじめ近隣の県の事業所に赴き、各種健康診断を行っております。巡回健診バスは胸部X線、胃部X線、胃胸併用、マンモグラフィ、婦人科等、車両は合わせて22台あります。

今後とも引き続き新型コロナウイルス感染症予防に取り組み、皆様が安心・安全に健康診断を受けていただけるようスタッフ一同、努めてまいります。

